

あなたのご家族（兄弟・姉妹・父母・祖父母）に八中の卒業生がいたら見せて下さい。

「あなたならどうする」 震災後の仮設住宅 今年の元日に発生した「能登半島地震」の被災者に対する仮設住宅は、当初6,500戸と発表された。しかるに3か月経った3月時点では、まだたったの1,600戸しか調達出来ていなかった。予定数に達するのは5月下旬と云われている。過去幾多の災害での仮設住宅需要は経験済みのハズなのに、何て無策なのだろうか、被災者に気の毒である。

では、今後どうすれば良いのか。①全国の市町村数は約1,700ある。ここに例えば人口2万人当たりに1戸のコンテナハウス（仮設住宅）を1戸備える。人口1億3,000万人とすれば、今回同様の6,500戸が準備されることになる。もし足りない想定するならば人口1万人当たりになればよい。②このコンテナハウスは、20フィート及び40フィートを適当な数量用意する。但し、

## 20フィートコンテナ

2.330m x 5.867m

1人又は2人用

40フィートはこの倍寸

全国統一規格（コスト及び利用マニュアルを統一するため）とする。

③費用負担20フィート1戸500万円前後は、国又は自治体負担は及び分担などは検討する。しかし、皆で持てばローコストである。

④保管場所はコンテナなので、積み上げることも可能。また、保管中には、コンテナの中に食料や救援物資を在庫することも可能である。

⑤保管場所に、道の駅・公民館などを選べば、常時公開することにより、

災害と避難仮設住宅を連想した、防災意識につながる。また、学校や施設に移動し見学会を開くことも、防災意識につながる。⑥利用時は各市町村での保有個数が分かっているならば、必要な時に必要なだけトレーラーで簡単に集められ、その際コンテナの中に食料や救援物資があれば、そのまま救援活動にも結びつく。とにかく設置場所だけ確保すれば、随分な数が短期間に集合出来る。

災害発生に伴う被害に対するインフラ（道路・電気・水道など）の復旧も大切であるが、被災者の生活支援のフォロー準備が出来ていない。避難先としての体育館避難などが長く続き過ぎ、直接的な災害死以外に避難先での関連死も問題になっている。これを解決するには、とりあえず安心して寝られる仮設住宅の用意は重要である。南海トラフも考えれば、市町村での配置は急務ではないか。

更に仮設住宅に收容された被災者は、当分その住宅での生活が余儀なくされる訳ですが、住宅の近所は見ず知らずの人ばかりで、言葉を話す機会もなく引きこもってしまう人も多くいるという。近所に集会所みたいなものも用意されるケースもありますが、中々そこまで足が延ばせない状況もある。

こんな時に役立つのが、「縁台」である。昔はどこの家にも「縁側」があり、近所の社交場であった。

その後の住宅事情により見られるようになったのが「縁台」である。縁台将棋や花火遊びなどを含め溜り場的社交場となり、「縁」の出来る「縁台」を配置することも一考である。勿論、ベンチでも良い。



## ⑩蜂前（はちさき）神社

「三方ヶ原」の戦いで、武田軍が徳川軍を待ち伏せした場所に鎮座する古社です。また井伊直虎の花押のある唯一の古文書、

## 「同窓会だより」掲載記事募集

八幡中学校同窓会事務局 代表 白井 鉄男

連絡先：〒430-0928

浜松市中区板屋町612-402

FAX：(053) 489-6391

[ironman29@hotmail.co.jp](mailto:ironman29@hotmail.co.jp)

「同窓会だより」は、八幡中学ホームページトップの「特色ある活動」から入ると、スマホやパソコンからでも見られます。皆様の友人や同級生にも教えてあげて下さい。「同窓会だより」は毎月発行。